



さいがい そな
[災害への備え]

れんらく ほうほう ほうき
連絡方法を決めておく

- ▶ 「災害用伝言サービス」を利用する
- ▶ 離れた所に住む親せきや知り合いに連絡する
- ▶ 家にメモを残す



連絡方法を決めておく

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① お母さん、みなとくん、みさきちゃんは、小学校へ避難している途中です。「お父さん、だいじょうぶかな」。みなとくんは、仕事に行っているお父さんのことが心配です。お母さんは「ちょっと電話してみるわ」と言って、お父さんに電話をしました。
- ② 「ツー、ツー」。「つながらないわ」。お母さんがお父さんに電話をしました。が、まったくつながりません。
- ③ 「どうしたの？お父さんだいじょうぶ？」と、みなとくんも心配です。お父さんと連絡がとれず、お母さんは「〇〇〇〇〇」

▶ セリフの例 (気持ち)

- 「どうしよう」
 「困ったわ」
 「お父さんどこにいるのかしら」

▶ 発問例

- ・みなとくんの家族のようにならないためには、どうすればいいですか？
- ・お父さんと連絡をとるために、どんな方法がありますか？

■ 教訓シートの説明



- ・災害時には、電話やメールがつながりにくなります。
- ・災害が起こった時、どのようにして連絡を取り合うか、家族で決めておきましょう。
- ・連絡方法はひとつだけでなく、いくつかの方法を考えておきましょう。

▶ 「災害用伝言サービス」を利用する

- ・災害用伝言サービスは次の3種類あります。
- ・①災害用伝言ダイヤル（171をダイヤル）、②災害用伝言板（携帯電話のメニューから）、③災害用伝言板（パソコンでWEB171と検索）
- ・使い方や特徴がそれぞれ異なるので、体験利用日（毎月1日と15日など）に練習しておきましょう。
- ・災害時は、固定電話や携帯電話より公衆電話の方が、また電話よりもメールやインターネットの方がつながりやすいことがあります。

▶ 離れた所に住む親せきや知り合いに連絡する

- ・被災地内の電話はともにつながりにくなります。
- ・被災地以外に住む人に連絡して、伝言してもらいましょう。

▶ 家にメモを残す

- ・家にメモ（日時、行き先、誰と）を残します。
- ・防犯のため、メモは玄関の扉の裏側など屋内の目立つ所に残します。
- ・伝言の内容やメモを貼っておく場所など、家族で話し合っ、決めておきましょう。

■ 東日本大震災の教訓

携帯電話について「停電で充電できなくなり、使えなくなった」という声が多かった一方で、「通話はできなくなったが、メールや連絡用のアプリなどで連絡がとれた」「用事がない時は電源を切っていたら、3週間ぐらいい電池がもった」という知恵もありました。